

定例公安委員会の開催状況について

令和5年11月2日に、第30回定例山形県公安委員会が開催されました。議事の概要は次のとおりでした。

1 会計監査の実施結果について

会計監査の実施結果について報告があった。

委員のコメント

- 県の会計監査や内部監査結果は、各所属で情報を共有し、今後も継続指導してほしい。
- 会計業務については不適切な事務やミスが生じないように、引き続き厳正厳格な監査を心掛けてほしい。
- 県の監査において指摘事項がなかったことは、内部監査が機能している結果でもあると思う。内部監査により、会計業務が遅延したケースが判明したものもあると思うので、計画的に業務を推進するよう指導してほしい。

2 少年サポートセンターの活動状況について

少年サポートセンターの活動状況について報告があった。

委員のコメント

- 近年は少年らがSNSなどのインターネットを通じて素行不良グループと接触したり、犯罪に関わったりしてしまうケースが増えていると思うので、それらを踏まえた関係機関団体との相互の情報交換や協力体制が重要である。
- 少年サポートセンターを拠点に少年補導専門官を集中運用することにより、プロフェッショナル化が進み、人材育成につながるというメリットがある。関係機関団体との良好な関係性が希薄化することなく、これまで同様にしっかり関係性を構築するよう対策を講じてほしい。また、昨今新たなSNSが次々と出てきていることから、SNSに起因する各種犯罪被害の拡大防止に向け対応してほしい。
- 少年補導専門官の業務は、従来型の少年の非行が減少傾向にある一方、被害者支援的な活動が増加するなど、業務内容が変化しており、少年サポートセンターが設置されたことにより、人員の最適化が図られたことは良いことである。少年サポートセンターの役割が実効あるものとなるよう関係機関団体に周知徹底することが重要だと思う。教育機関等との関係性を構築して青少年の健全育成のために協働することを目指してほしい。

3 「交通死亡事故防止対策プロジェクトチーム」の設置による重大交通事故防止活動の更なる推進について

「交通死亡事故防止対策プロジェクトチーム」の設置による重大交通事故防止活動の更なる推進について報告があった。

委員のコメント

- 多角的な事故分析に基づき対策を講じることは大変重要である。プロジェクトチームの今後の活躍に期待する。
- 経済活動の再開状況から、今後も死亡事故の増加が懸念される中、プロジェクトチームを設置して対策を講じることを評価する。年内に現時点における分析に基づいた施策を講じ、それを評価して更なる課題を抽出して対応してほしい。場合によっては、本プロジェクトの期間延長についても検討してはどうか。今の情勢を考えると、様々な対策を検討し、これまでと違った対策を取ることも重要だと思う。
- コロナ禍の令和2・3年と比較して、現在の自動車交通量が激増しており、その中で交通事故防止対策はある程度機能していると思う。以前、重点的に横断歩行者妨害違反取締りを実施し、警察官の姿を見せる活動により通行車両の車速の低下等、一定の効果が見られた。今後、交通違反取締りの強化について大々的に広報してはどうか。運転者に安全運転を注意喚起し、交通事故防止の意識付けを徹底してほしい。

4 令和5年度東北管区広域緊急援助隊合同訓練の実施（予定）について

令和5年11月7日から同月8日までの間実施される令和5年度東北管区広域緊急援助隊合同訓練について報告があった。

委員のコメント

- 昨年、災害救助訓練を実施した直後に、鶴岡市で大規模な土砂崩れが発生した際、迅速な救助活動が行われたものと承知している。この度本県で大規模な訓練が行われることを貴重な機会として捉え、今後につながる訓練となることを期待する。また、訓練中の受傷事故には十分配慮してほしい。
- 温暖化の影響により、本県においても大規模災害が発生し、今後もいつ発生してもおかしくないという認識のもとに訓練を実施する必要がある。警察が広域に連携することは非常に大事だと思う。訓練を通じて抽出した課題を、改善しながら対応の強化につなげてほしい。
- 訓練の重要性を再認識し、結果を元に更なる実効性のある訓練へとつながるよう努めてほしい。